

ハバルツジナ 売上高300億目指す

飲料製造販売などを手掛けるハルナビバレツジ（高崎市足門町、青木麻生社長）は20日、創業30周年に当たる2026年3月期の連結

売上高を300億円とする長期経営ビジョンを発表した。欧州での販路開拓や、協業による製造ライン新設などを積極的に進める。

19年3月期と比べて売上高を約1・3倍に引き上げるほか、営業利益（目標10億円）も約2倍にする。

19年3月期に始めた茶系飲料の欧州展開に本腰を入れ、20年3月期はスペインとフランスを中心にオーガニックの新商品を含む5種を販売。プライベートブランド（P.B.）商品の開拓も始める。

他社との協業も促進する。ミネラルウォーターの無菌充填といった新たな生産ラインを県内に設置するため、技術を共同開発する「オープンイノベ

ション」を進める。青木社長は「協業により減価償却費が抑えられ、営業利益の増額が可能」と説明した。

同時に発表した19年3月期連結決算は、売上高が前期比7・4%増の235億6800万円、純利益が42・4%増の2億4500万円だった。